

知の技術 ～教員・保育士養成基礎講座～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	-	-	-

担当教員
長沼・関根・佐々木・小林

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教員や保育士を目指す学生が初年次に身につけるべき以下の内容を指導する。

- ・大学生としての学びの技術と大学で履修する科目内容への理解（川短での学びを深める）
- ・社会人として求められる基本的なスキル（コミュニケーション力とプレゼンテーション力を磨く）
- ・実習に必要な社会常識とマナー（実習に向けて準備する）

授業計画

第1回	ガイダンス—大学での学び方を身に着けよう
第2回	川短での学びの概要と受講に指してのルールを知ろう（学生としての学び①）
第3回	メディアセンターの機能を知り活用しよう（学生としての学び②）
第4回	インターネット（SNSを含む）の有効な活用を考えよう（学生としての学び③）
第5回	ノートの取り方とレポートの書き方を身につけよう（学生としての学び④）
第6回	教員・保育士を目指すための心構えを確認しよう（実習にむけての学び①）
第7回	実習に参加するためのマナーを身につけよう（実習にむけての学び②）
第8回	手紙の書き方を身につけよう（実習にむけての学び③）
第9回	人前に立って話す準備をしよう（実習にむけての学び④）
第10回	教育・保育学演習の授業（ゼミ活動）について知ろう（学生としての学び⑤）
第11回	教育・保育学演習の授業（ゼミ活動）を決めよう（学生としての学び⑥）
第12回	個人調書を書こう（実習にむけての学び⑤）
第13回	模擬授業・模擬保育に挑戦しよう（実習にむけての学び⑥）
第14回	模擬授業・模擬保育に挑戦しよう（実習にむけての学び⑦）
第15回	まとめ—「かわたんシート」を使って授業の振り返りをしよう（学生としての学び⑦）

到達目標

2年間の大学生活を有意義なものにするために必要な学びの態勢を整え、社会人としての基本的なスキルおよび教員や保育士を目指すうえで不可欠な社会常識とマナーを身につける。

履修上の注意

本授業は大学での学びの基礎となる事項に加えて、免許・資格取得と密接に関連した重要事項を扱うため、全学生がすべての回に出席し、求められる提出物を期限内に提出する必要がある。配布物はすべてファイルして保存しておくこと。

1年後期に開講する「教育実習指導（事前事後）幼稚園／小学校」「保育実習Ⅰ・Ⅱ（事前事後）」は、本授業の内容を修得済であることが前提で進められるので、実習参加予定者は特に注意してもらいたい。

また、5回・10回・15回の授業時に「漢字テスト」を行うので、授業回毎に伝える学習案内のペースに従って自習を進めること。

遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

予習・復習

- ・予習：漢字学習を授業回ごとに指示されたペースで進める。
- ・復習：各回の授業内容に基づき、具体的に指示する。

評価方法

漢字テストおよび課題レポート	50%	授業時の提出物	30%	発表	20%
----------------	-----	---------	-----	----	-----

使用教科書名

- ・教科書名：『【改訂版】これだけは知っておきたい保育の基本用語』
 - ・著者名：長島和代（編） 石丸るみ・亀崎美沙子・木内英実（著）
 - ・出版社名：わかば社
 - ・出版年：2017年
- * 『令和4年度 実習のてびき』（他に、必要に応じて資料を配布する）

音楽Ⅰ ～保育・教育現場における音楽活動を行うための基礎理論と実践～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	必修	-	選択必修	必修

担当教員
齊藤・一村・佐藤(千)・佐藤(良)・須田・館岡・山口(亜)

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教員・保育者として、子ども達に楽しい音楽あそびを展開するために必要な音楽の基礎的な能力の育成を目指す。受講者を2グループに分け、クラス授業(45分)とピアノの個人レッスン(45分)を並行して行う。クラス授業では、音楽の基礎的な理論(楽典)とピアノ伴奏のための基礎演習、コード伴奏法などについて、小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。個人レッスンでは、教育・保育実習や保育現場において使用頻度の高い歌唱曲や生活の歌(実習曲)を必修課題とし、ハ長調のコード伴奏を中心に、子ども達が楽しく歌うための伴奏技術を身に付ける。

授業計画

第1回	ガイダンス～保育者に求められる音楽能力について考える	
第2回	リズム唱及び童謡の歌唱(小・中学校教員の实務経験を生かした指導)	個人レッスン
第3回	ピアノ演奏の基礎・楽典①(小・中学校教員の实務経験を生かした指導)	個人レッスン
第4回	I・V7の和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る, 楽典②	個人レッスン
第5回	ピアノ演奏の基礎・楽典③(小・中学校教員の实務経験を生かした指導)	個人レッスン
第6回	ピアノ演奏の基礎・楽典④(小・中学校教員の实務経験を生かした指導)	個人レッスン
第7回	「かえるのうた」I・V7の全調課題試験(ピアノ演奏の基礎)	個人レッスン
第8回	前奏・後奏の意義の理解と実践, 楽典⑤(小・中学校教員の实務経験を生かした指導)	個人レッスン
第9回	ピアノ演奏の基礎・楽典⑥(小・中学校教員の实務経験を生かした指導)	個人レッスン
第10回	I・Vの和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る, 楽典⑦	個人レッスン
第11回	ピアノ演奏の基礎・楽典⑧(小・中学校教員の实務経験を生かした指導)	個人レッスン
第12回	ピアノ演奏の基礎・楽典⑨(小・中学校教員の实務経験を生かした指導)	個人レッスン
第13回	ピアノ演奏の基礎・楽典⑩(小・中学校教員の实務経験を生かした指導)	個人レッスン
第14回	「メリーさんの羊」I・Vの全調課題試験及び楽典のまとめ	個人レッスン
第15回	楽典試験	個人レッスン

到達目標

子ども達との音楽活動を通し、感性豊かな表現を目指す。教育・保育実習や保育現場での実践に対応できる力を身に付けるとともに、子ども達自らが児童文化財を楽しむ体験を支えるための音楽的スキルを身に付ける。

履修上の注意

- ・教育実習Ⅰ(幼稚園)の派遣のための条件科目及び卒業必修科目である。
- ・クラス授業はML教室(音楽室)で行う。個人レッスンはレッスン室で行う。
- ・「クラス授業」「個人レッスン」のどちらかのみの出席は欠席扱いとなるので注意すること。また、遅刻3回で1欠席扱いとする。
- ・音楽室及び個人レッスン室の使用マナーを守ること(飲食厳禁など遵守事項を守る)。

予習・復習

- ・予習: 音楽の各技能の向上を目指すには、日々の練習が欠かせません。個人レッスンの一人あたりの時間は短いため、必ず練習をして臨むこと。練習をしていない状態では、個人レッスンを受ける資格がないに等しいです。
- ・復習: 合格した課題曲はいつでも演奏できるよう、レッスン後も継続して練習すること。さらに、理論については、授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し、理解を深めること。

評価方法

実技試験(全調課題各10%・期末実技試験30%)	楽典試験(30%)	学習態度・練習状況・課題提出(20%)
--------------------------	-----------	---------------------

使用教科書名

- ・『3つのコードで楽しく弾ける♪ピアノ伴奏曲集』伊藤伸明編著, ドレミ楽譜出版社, 2016
- ・『改訂 音楽通論』教芸音楽研究グループ編, 教育芸術社, 2009
- ・入学前配布資料
- ・その他, 適宜, 資料を配布する(A4サイズのスクラップブックを準備すること)

音楽Ⅱ ～幼児の音楽活動のための基礎～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	必修	選択必修	選択必修

担当教員
宮澤・一村・佐藤(千)・佐藤(良)・ 須田・舘岡・山口(亜)

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

「音楽Ⅰ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを45分交代で実施する。幼児が楽しみながら主体的に活動する音楽あそびや歌唱指導を実践するために必要な音楽の知識や演奏技能の基礎、音楽表現の工夫を指導する。

クラス授業では、西洋音楽の基礎的な理論(楽典)を、実際に演奏する楽曲と関連付けて学習することで、生きた音楽の知識を身に付ける。また、合唱発表を通し、聴き手と一体となって楽しめるような身体表現や舞台発表の工夫について、協働的に学ぶ。ピアノの個人レッスンでは、保育・教育現場で使用頻度の高い「子どものうた」や「生活のうた(実習曲)」を必修課題とし、ト長調・ヘ長調のコード伴奏法を中心に、子どもが楽しく歌える弾き歌いの技能を身に付ける。また、音楽表現の幅を広げるため、個々のレベルに応じた芸術曲の演奏にも取り組む。

授業計画

第1回	オリエンテーション、楽典①ト長調・ヘ長調のコード	個人レッスン【夏休み課題】
第2回	歌唱①大学祭発表曲・必修曲、幼児の声域と発声	個人レッスン【生活のうた】
第3回	歌唱②大学祭発表曲・必修曲、歌唱教材と著作権	個人レッスン【生活のうた】
第4回	歌唱③大学祭発表曲(歌唱と身体表現の関わり)	個人レッスン【生活のうた】
第5回	歌唱④大学祭発表曲【リハーサル】	
第6回	歌唱⑤大学祭発表曲【演奏発表】	
第7回	歌唱⑥季節のうた(秋)、楽典②長音階の仕組み	個人レッスン【必修曲】
第8回	楽典③和音の種類と役割(I・IV・V・V7)	個人レッスン【必修曲】
第9回	【中間実技試験】「生活のうた」弾き歌い	個人レッスン【必修曲】
第10回	教育実習の振り返り、楽典④:調の見分け方(♯の調号)	個人レッスン(芸術曲)
第11回	【「きらきら星」移調課題試験】①♯系3調	個人レッスン(芸術曲)
第12回	楽典⑤調の見分け方(♭の調号)	個人レッスン(芸術曲)
第13回	【「きらきら星」移調課題試験】②♭系3調	個人レッスン(芸術曲)
第14回	楽典⑥和音の転回	個人レッスン(芸術曲)
第15回	【楽典試験】	個人レッスン(芸術曲)

到達目標

- ・音楽の基礎的な理論について、実際に演奏する楽曲と結び付けて理解することができる。
- ・楽曲の良さや美しさを感じ取り、ふさわしい音楽表現を工夫して歌ったりピアノを演奏したりすることができる。

履修上の注意

- ・教育実習Ⅱ(幼稚園教諭免許状取得希望者)の派遣のための条件科目及び卒業必修科目である。
- ・遅刻は3回で1回欠席とする。授業開始後20分以降は欠席扱いとする。
- ・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなるので注意すること。
- ・クラス授業では、【大学祭合唱発表(リハーサル・本番)】【「きらきら星」移調課題試験】【楽典試験】を、ピアノの個人レッスンでは【夏休みの課題】【生活のうた(実習曲)】【必修曲】の合格を必修とする。

予習・復習

- ・予習:ピアノの個人レッスンで次回までに指示された楽曲を演奏できるように毎日練習する。
- ・復習:授業で学習した楽典を復習し、合格した弾き歌いの楽曲を週2回程度引き続き練習する。

評価方法

実技試験 50%(中間10%・移調課題10%・期末30%)	楽典試験 30%	学習態度・課題提出 20%
-------------------------------	----------	---------------

使用教科書名

- ・「音楽Ⅰ」に引き続き、『音楽通論』『3つのコードで楽しく弾ける ピアノ伴奏集』を使用する。
- ・資料を配布するため、保存用のスクラップブックとのりを毎回持参すること。

保育内容（表現・音楽） ～保育者として必要な音楽表現の理論と実践～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	必修	-	必修

担当教員
齊藤 淳子

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

幼稚園や保育園で日常的に行われている音楽表現について、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「表現」をふまえながら理論的・実践的に理解を深める。また、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりとして、保幼少連携の在り方について指導する。

授業計画

第1回	ガイドダンス，楽器で奏でる①～太鼓あそび，声で奏でる①わらべうたあそび～
第2回	楽器で奏でる②～楽器の基本奏法を知ろう（太鼓・チャンキキ・篠笛等を含む）～
第3回	楽器で奏でる③～アンサンブルをつくろう（創作お囃子）～
第4回	楽器で奏でる④～創作曲を練り，曲を完成させる～
第5回	舞台発表の演習及びリハーサル（ICT及び教材の活用を含む）
第6回	舞台発表の本番（舞台設置・セッティング・演奏・舞台撤去等の体験）
第7回	舞台発表の振り返り，世界の音楽教育メソッドを知る
第8回	手で奏でる・身体で奏でる①～手あそび・手話の歌～
第9回	声で奏でる②～童謡をア・カペラで100曲演習1～
第10回	声で奏でる③～童謡をア・カペラで100曲演習2～
第11回	手で奏でる・身体で奏でる②～リトミックとリズムあそび～
第12回	身近な素材で奏でる～身の回りの音素材探し・音から音楽へ（ICTの活用を含む）～
第13回	楽器で奏でる⑤～様々な打楽器の音を聴き，基本奏法を知ろう～
第14回	絵本と音楽～絵本と音楽の関係について考え，絵本に音・音楽をつけてみよう～
第15回	まとめ～総合的な音楽表現～

到達目標

- ・領域「表現」における音楽表現の扱いについて学び，そのねらいと内容を理解する。
- ・童謡100曲（歌），楽器奏法30種類，手遊び20曲，創作能力を修得する。
- ・世界の音楽教育メソッドについて理解する（レポート）
- ・こどもの音楽あそびについてPDCAサイクル「計画(P)→実践(D)→評価(C)→改善(A)」で実践できる能力を身につける。

履修上の注意

- ・大学祭での舞台発表は，普段の授業とは異なる学びを得ることができるため，練習，準備，本番の全てに出席することを必修とする。
- ・グループやペアなど仲間と協力して音楽づくりを進めること。
- ・積極的に様々な音楽表現を体験すること。
- ・遅刻3回で1欠席扱いとします。

予習・復習

- ・予習：音楽の各技能の向上を目指すには日々の練習が欠かせない。必ず練習をして授業に臨むこと。
- ・復習：クリアした課題はいつでも演奏できるように，継続して練習すること。さらに，理論については難しい内容もあるため，授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し，理解を深めること。

評価方法

実技試験（60%）	レポート（20%）	学習態度・提出物（20%）
-----------	-----------	---------------

使用教科書名

- ・教科書名：『アイディアいっぱい 保育者のための音楽表現』金指初恵（編著）大学図書出版
- *参考図書：『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『小学校学習指導要領』
- *その他，適宜，資料を配布する（A4サイズのスクラップブックを準備すること）

保育内容(表現・造形) I ～子どもに関わる造形表現の基礎～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
1年	前期	1	選択	必修	-	選択必修	木谷 安憲

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするための授業である。
 そのために、自分が表現するだけでなく園児に対してどのようにかかわっていけばよいのかを、授業全体を通して指導する。

授業計画

第1回	授業スケジュールと材料・用具の説明（情報機器及び教材の活用を含む）
第2回	色紙を使った「自分の名前デザイン」
第3回	色彩表現Ⅰ 色の三原色を使った色彩あそび
第4回	色彩表現Ⅱ 色の三原色と白・黒を使った色彩あそび
第5回	色彩表現Ⅲ 色の三原色を使った絵画あそび
第6回	色紙と絵具を使った絵画遊び
第7回	幼稚園教育要領について
第8回	絵の活動を考えるⅠ 幼稚園でできる絵画の製作
第9回	絵の活動を考えるⅡ 幼稚園での絵画活動 導入のプレゼンテーション
第10回	絵の活動を考えるⅢ クラス単位での模擬授業
第11回	絵の活動を考えるⅣ クラス単位での壁面装飾風共同制作
第12回	絵画制作 ごしごしあそび かたつむりを描く
第13回	絵画制作 どこから描いたらいいのあそび
第14回	絵画制作 こすりだしあそび フロッタージュなどの技法習得
第15回	おなまえ絵本制作

到達目標

造形活動を楽しむことができるようになる。
 感じたことや考えたことを自分なりに表現できるようになる。
 指導者の立場で活動を考えられるようになる。

履修上の注意

保育内容（表現・造形）Ⅰの履修者が受講する。
 絵の具セットを毎回持参する。
 ハサミ、のりは毎回持参する。
 30分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻3回で1回の欠席とする

予習・復習

- ・予習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。
- ・復習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。

評価方法

提出課題（60%）	試験（30%）	授業態度（10%）
-----------	---------	-----------

使用教科書名

- ・教科書名：子どもの造形表現—ワークシートで学ぶ
- ・著者名：畠山智宏・北沢昌代・中村光絵
- ・出版社名：開成出版
- ・出版年：第2版 2019年

保育内容(表現・造形)Ⅱ ～子どもに関わる造形表現の応用～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
1年	後期	1	選択	必修	-	選択必修	木谷 安憲

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするための授業である。

また、自分が表現するだけでなく園児に対してどのような指導を行えばよいのかを、授業全体を通して考えていき、模擬授業ができるまでの技術を身につけられるよう指導する。

授業計画

第1回	おなまえ絵本発表スピーチ
第2回	壁面装飾Ⅰ 下絵・製作
第3回	壁面装飾Ⅱ 製作
第4回	壁面装飾Ⅲ 製作・展示
第5回	表現技法Ⅰ ローラーあそび
第6回	表現技法Ⅱ 滲み絵あそび
第7回	表現技法Ⅲ 染め絵あそび
第8回	立体の活動を考えるⅠ 幼稚園でできる立体の製作
第9回	立体の活動を考えるⅡ 幼稚園での製作活動 導入のプレゼンテーション
第10回	立体の活動を考えるⅢ 幼稚園での製作活動 活動の展開と応用
第11回	詩画作品制作 はじめての幼稚園実習の体験をもとにして
第12回	絵画制作 こどもに戻って絵をかこう 保育者の視点でのこども理解
第13回	クリスマス装飾制作
第14回	人物イラストの練習 園児にみたてた似顔絵制作とメッセージ書き
第15回	まとめ・振り返り (情報機器及び教材の活用を含む)

到達目標

造形活動を楽しむことができるようになる。

感じたことや考えたことを自分なりに表現できるようになる。

指導者の立場で活動を考えられるようになる。

履修上の注意

保育内容(表現・造形)Ⅰの履修者が受講する。

絵の具セットを毎回持参する。

ハサミ、のりは毎回持参する。

30分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻3回で1回の欠席とする

予習・復習

・予習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

・復習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。

評価方法

提出課題 (60%)

試験 (30%)

授業態度 (10%)

使用教科書名

・教科書名：子どもの造形表現—ワークシートで学ぶ

・著者名：畠山智宏・北沢昌代・中村光絵

・出版社名：開成出版

・出版年：第2版 2019年

子どもと人間関係 ～「わたし」から「わたしたち」へ～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	必修	-	-

担当教員
岩崎 桂子

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

領域「人間関係」の指導の基礎となる基礎理論として発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。毎回、DVDの視聴を通して子どもの育ちの姿について理解する。

授業計画

第1回	現代社会と人間関係ー時代や場所、社会システムとの関係についてー
第2回	人間関係を築くのに必要な力ー乳幼児期の経験とその後の人間関係についてー
第3回	保育における「人間関係」ー領域「人間関係」について、他の領域との関連についてー
第4回	保育者が作る「人間関係」ー子ども・保護者・地域や専門機関などとの関係についてー
第5回	3歳未満児における人間関係の発達ー身近な大人との関係についてー
第6回	3歳児の「人間関係」ー遊びや生活を通じた人間関係、保護者との関わりについてー
第7回	4歳児の「人間関係」ー遊びや生活を通じた人間関係、保護者との関わりについてー
第8回	5歳児の「人間関係」ー遊びや生活を通じた人間関係、保護者との関わりについてー
第9回	6歳児の「人間関係」ー遊びや生活を通じた人間関係、保護者との関わりについてー
第10回	幼保小の接続ー「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係についてー
第11回	多様化する「人間関係」ー模範意識・道徳性、多様な価値観等についてー
第12回	グループワークー保育場面から人間関係の育ちを考察するー
第13回	グループワーク発表①ーグループ1～5ー
第14回	グループワーク発表②ーグループ6～10ー
第15回	まとめー育ちゆく保育者としての学びあいー

到達目標

- ① 幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。
- ② 幼児期の遊びやの中で育つ人と関わる力の発達について、保育者との関係、幼児との関係、集団の中で育ちを観点として説明できる。
- ③ 自立心の育ち、協同性の育ち、家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。

履修上の注意

- ・映像資料で使用するワークシートを保管するファイルを用意する。
- ・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
- ・遅刻（授業開始20分）3回で、欠席1回とする。

予習・復習

- ・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
- ・復習：返却されたワークシートを見直しておく。必要に応じて授業外でグループでの話し合いを進めておく。

評価方法

学期末試験 50%	授業内課題 30%	受講態度 20%
-----------	-----------	----------

使用教科書名

- ・教科書名：子どもと保育者でつくる人間関係ー「わたし」から「わたしたち」へー第2版
- ・著者名：編者：横山真貴・出版社：教育情報出版

子どもと表現 ～子どもの表現を支えるための感性を豊かにする～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修	-	-

担当教員
木谷・齊藤・宮澤

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

領域「表現」の指導に関する、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に指導し、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。

授業計画

第1回	表現とは何か、表現の生成過程の理解、領域「表現」のねらいと内容の理解
第2回	乳幼児の音楽的発達及び音楽表現の芽生えの理解（担当：宮澤）
第3回	イメージを音や声で表現する（担当：宮澤）
第4回	子どもの音楽遊びの体験と保育における音楽表現活動への展開（担当：宮澤）
第5回	豊かな音楽活動—音楽表現から総合的な表現への広がり—（担当：宮澤）
第6回	乳幼児の造形的発達及び造形表現の芽生えの理解（担当：木谷）
第7回	子どもの造形遊びの体験と保育における造形表現活動への展開（担当：木谷）
第8回	イメージを色や形で表現する（担当：木谷）
第9回	豊かな表現活動—造形表現から総合的な表現への広がり—（担当：木谷）
第10回	子どもの身体表現と身体的発達の理解（担当：齊藤）
第11回	イメージを身体で表現する（担当：齊藤）
第12回	子どもの身体遊びの体験と保育における身体表現活動への展開（担当：齊藤）
第13回	豊かな表現活動—身体表現から総合的な表現への広がり—（担当：齊藤）
第14回	音や声・色や形・動きを媒体とした総合的な表現創作活動
第15回	表現活動におけるICTの活用と学習の総括

到達目標

(1) 幼児の表現の姿や、その発達を理解する。(2) 身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。

履修上の注意

- ・授業では表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析できることを目指す。そのために、協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくように取り組むこと。また、様々な表現の基礎的知識を生かし、子どもの表現活動に展開させることができるように積極的な姿勢で授業に臨むこと。
- ・遅刻は3回で1回欠席とする。授業開始後20分以降は欠席扱いとする。

予習・復習

- ・予習：様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができるようにする授業なので、身の回りのものを身体の諸感覚でとらえるようにする時間を設ける。
- ・復習：子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できるように、その度に授業を振り返る。

評価方法

授業での気付きや振り返りなどの記録を中心に、学びの過程を評価する (60%)	学びを生かした表現のグループ発表を評価する (10%)	学習の総括で学びの成果を評価する (30%)。
--	-----------------------------	-------------------------

使用教科書名

- ・教科書名：①保育者養成のための子どもと音楽表現 ②ずこうことばでかんがえる ・著者名：①宮澤多英子 ②きだにやすのり ・出版社名：①一般社団法人日本電子書籍技術普及協会出版 ②HH.A.B. ・出版年：①2021年 ②2017年
- ③幼稚園教育要領（平成29年告示 文部科学省）、④保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）、⑤幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

子どもの食と栄養 I ～子どもの健やかな育ちを支援する～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	-	-	必修

担当教員
三沢 徳枝

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

健康な生活を送る上での食生活の意義や栄養に関する基本的知識を指導する。乳児期から幼児期の子どもの発育・発達と食生活との関連について指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス、子どもの食と栄養に関する問題と学習する内容について
第2回	子どもの健康と食生活の現状と課題
第3回	子どもの発育・発達、食べる機能の発達と栄養・食生活
第4回	栄養に関する基本的知識 ①食べ物のゆくえ、水分代謝
第5回	栄養に関する基本的知識 ②栄養素の種類と働き、食生活の目標、食事摂取基準
第6回	子どもの発育・発達と食生活 ①妊娠期、授乳期の栄養と食生活
第7回	子どもの発育・発達と食生活 ②乳児期の食生活の特徴、食べる機能と食行動
第8回	子どもの発育・発達と食生活 ③乳児期の授乳の意義と食生活、乳汁栄養、調乳
第9回	子どもの発育・発達と食生活 ④乳児期の授乳の意義と食生活、離乳の意義
第10回	子どもの発育・発達と食生活 ⑤乳児期の授乳の意義と食生活、離乳食の進め方
第11回	子どもの発育・発達と食生活 ⑥乳児期の離乳の意義と食生活 保育士による離乳食供与の留意点
第12回	子どもの発育・発達と食生活 ⑦幼児期の心身の発達と食生活 幼児期の成長と発達、幼児期の食生活の特徴
第13回	子どもの発育・発達と食生活 ⑧幼児期の心身の発達と食生活 幼児の献立、間食の意義と実践
第14回	子どもの発育・発達と食生活 ⑨幼児期の心身の発達と食生活 幼児期の食生活上の問題と対応
第15回	学習の振り返りとまとめ

到達目標

乳児期から幼児期の子どもが健康な生活を送る上での食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得し、発達段階ごとに食生活の特徴を理解し、食生活上の問題と健康への対応ができる。

履修上の注意

授業開始から 30 分以内の遅れは遅刻とする。最後のまとめで授業時に指示した資料や配布資料及び課題を使用するので整理しておく。

予習・復習

- ・予習：テキストや指示された資料を読み、teams の課題をする。
- ・復習：学習した内容を課題に追記して復習する。

評価方法

授業内レポート・テスト 60%	課題 30%	発表 10%
-----------------	--------	--------

使用教科書名

- ・教科書名：子どもの食と栄養 第2版～保育現場で活かせる食の基本
- ・著者名：太田百合子・堤ちはる編著
- ・出版社名：羊土社
- ・出版年：2020年

乳児保育 I ～乳児保育の基本を理解する～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	-	-	必修

担当教員
関根 久美

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教科書、教員の解説、DVD 視聴、ディスカッションなどから、乳児保育の理念、基本について指導する。乳児の発達や援助方法などを理論的に理解し、演習に進む基礎とする。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション、乳児保育の意義・目的・歴史的変遷について
第 2 回	乳児保育の役割と機能について
第 3 回	日本の保育・子育ての支援のシステム
第 4 回	保育所における乳児保育、保育内容（養護と教育）、保育士の役割
第 5 回	3歳未満児とその家族をとりまく環境と子育て支援について
第 6 回	これからの日本の乳児保育の課題について
第 7 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助①
第 8 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助②
第 9 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助③
第 10 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助④
第 11 回	乳児保育における環境（安全・清潔など）について
第 12 回	乳児保育における環境（人・物・自然・社会事象）について
第 13 回	乳児保育における計画・記録・評価について
第 14 回	乳児保育における連携・協働について
第 15 回	振り返りとまとめ

到達目標

- 1、乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割などについて理解する。
- 2、保育所をはじめとする多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
- 3、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
- 4、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

履修上の注意

保育士を志す学生として主体的・積極的に授業に参加すること。
遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

予習・復習

- ・予習：保育所保育指針、教科書を読んでおく。
- ・復習：復習：授業内容のプリント、ノートを整理し、重要事項をチェックする。

評価方法

試験 60%	レポートなど 30%	授業態度 10%
--------	------------	----------

使用教科書名

- ・教科書名：乳児保育の基礎と実践
- ・著者名：関根久美 山本智子
- ・出版社名：大学図書出版
- ・出版年：2020年

乳児保育Ⅱ ～乳児保育の実践～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	-	-	必修

担当教員
関根 久美

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

乳児保育Ⅰで学習した理論を実践できるよう指導する。保育所実習での実践の基本を身に付けるため、演習を通して学生各自が具体的な保育方法を理解し、練習する。保育方法の技術が向上するように、学生同士の意見交換や発表の場を多く設けていく。

授業計画

第1回	オリエンテーション 子どもと保育士等との関係の重要性
第2回	子どもの主体性の尊重と自己の育ち 子どもの体験と学びの芽生え
第3回	子どもの1日の生活の流れと保育の環境 子どもの生活や遊びを支える環境構成
第4回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際①（抱っことおんぶ）
第5回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際②（着替えとおむつ替え）
第6回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際③（調乳と授乳）
第7回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際④（おもちゃ作成）
第8回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際⑤（おもちゃ作成と実践）
第9回	子ども同士の関わりとその援助の実際 集団での生活における配慮
第10回	長期的な指導計画 個別的な指導計画と集団の指導計画
第11回	短期的な指導計画の作成
第12回	指導計画の実践①
第13回	指導計画の実践②
第14回	指導計画の実践③
第15回	振り返りとまとめ

到達目標

- 1、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
- 2、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活と遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
- 3、乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
- 4、上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解し実践する。

履修上の注意

保育士を志す学生として主体的・積極的に授業に参加すること
遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

予習・復習

- ・予習：実践のための計画を立て、準備しておく。
- ・復習：授業での実践を各自、自宅などで実践する。

評価方法

試験 50%	指導計画と実践 40%	授業態度 10%
--------	-------------	----------

使用教科書名

- ・教科書名：乳児保育の基礎と実践
- ・著者名：関根久美 山本智子
- ・出版社名：大学図書出版
- ・出版年：2020年

特別支援論 I (対象理解)

～特別支援教育の基礎・基本～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	必修	必修	必修

担当教員
井上 昌士

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

障害のある子供に携わる教師、保育士として必要な特別支援教育に係る基礎・基本的事項について以下の3点を重点的に指導する。

- 障害児理解、支援方法に係る基礎・基本的事項
- 多様な学びの場における障害のある子供の教育課程や実践内容等
- 特別支援教育に関する現状と課題、諸制度等

授業計画

第1回	オリエンテーション：障害児・者との関わりと特別支援教育の理念
第2回	障害児教育の歴史と特別支援教育の現状
第3回	視覚障害、聴覚障害の特性の理解と支援
第4回	知的障害の特性の理解と支援
第5回	肢体不自由、病弱・身体虚弱の特性の理解と支援
第6回	言語障害、情緒障害の特性の理解と支援
第7回	発達障害①：自閉症の特性の理解と支援 I
第8回	発達障害②：自閉症の特性の理解と支援 II
第9回	発達障害③：学習障害の特性の理解と支援
第10回	発達障害④：注意欠陥／多動性障害等の特性の理解と支援
第11回	共生社会の形成とインクルーシブ教育システムの構築に関する理解
第12回	連続性のある多様な学びの場① 特別支援学校における指導の実際
第13回	連続性のある多様な学びの場② 特別支援学級における指導の実際
第14回	連続性のある多様な学びの場③ 通級による指導、通常の学級での特別支援教育
第15回	まとめ：特別支援教育を巡る状況の変化

到達目標

- 障害や特別支援教育についての基礎・基本を理解する。
- 特別支援教育を巡る状況や現状の概要を理解する。
- 連続性のある多様な学びの場の概要を理解する。

履修上の注意

- 授業中の基本的なマナーを守ること。
- 遅刻3回で欠席1回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は、必ず授業資料を受け取りに来ること。

予習・復習

- 予習：授業で取り扱う内容について、書籍やインターネットや新聞、TV等を活用して情報収集を行う。
- 復習：資料（PPTスライド等）を用いて学んだ内容を整理して確認する。

評価方法

学期末試験 60%	提出物、授業内レポート等 20%	受講態度 20%
-----------	------------------	----------

使用教科書名

- 教科書は使用しないが、各回資料（PPTスライド等）を配布する。
- 参考図書：「特別支援教育の基礎・基本 2020」 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 著作 ジアース教育新社出版

教育実習指導(事前事後)(幼稚園)

～教育実習を有意義な体験にするために～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1・2年	後期・前期	1	選択	必修	-	-

担当教員
木谷・関根・ 佐々木・小林

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ(幼稚園)それぞれについて、実習に向けての事前指導と実習を終えてからの事後指導を講義する。

授業計画

第1回	教育実習の概要と事前事後指導の流れ
第2回	実習先事前訪問(オリエンテーション)について
第3回	実習生としてのマナーと心構え
第4回	課題を明確にして教育実習に取り組むために
第5回	実習日誌について①—日誌の意義を理解する
第6回	実習日誌について②—日誌の書き方を学ぶ
第7回	「教育実習Ⅰ」の振り返りと「教育実習Ⅱ」に向けた自己課題
第8回	「教育実習Ⅱ」学内オリエンテーション
第9回	「教育実習Ⅱ」実習先事前訪問(オリエンテーション)について
第10回	実習日誌について③—場面の記録の書き方を理解する
第11回	指導案作成①—指導案の意義を理解する
第12回	指導案作成②—指導案の書き方を学ぶ
第13回	指導案作成③—指導案に沿った保育の展開を理解する
第14回	教育実習Ⅱの課題と心構え
第15回	「教育実習Ⅱ」の振り返りと今後の課題

到達目標

1. 教育実習Ⅰ

- ・マナーを守り、意欲的に教育実習Ⅰに取り組むために課題を明確して実習に臨む。
- ・3歳から5歳の発達を理解し、幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む。
- ・保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができるようになり実習に臨む。
- ・期日を守り提出物や実習の手続きを自主的に進められる。
- ・教育実習Ⅰを振り返り、教育実習Ⅱの課題を明確にできる。

2. 教育実習Ⅱ

- ・実習園の特色や保育方針等を理解し、課題を明確にして実習に臨む。
- ・保育者の援助の意図を感じ取り、「気づき」を日誌に書くことができるようになって実習に臨む。
- ・＜導入、展開、まとめ＞の一連の流れを指導案として作成できる。
- ・子どもの姿を予測し配慮事項や留意点を挙げることができ、指導計画の準備をして実習に臨む。
- ・期日を守り提出物や実習の手続きを計画的に進められる。
- ・教育実習Ⅱを振り返り、今後の課題を明確にできる。

履修上の注意

- ・事前指導は、欠席が2割を超えた場合、実習を実施できない。
- ・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。

予習・復習

- (1) 予習：次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
- (2) 復習：課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。

評価方法

授業態度・課題の提出物・出席状況により、総合的に評価する。

使用教科書名

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、最新版
小櫃智子編『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社、2015年

教育実習 I (幼稚園)

～幼児理解・幼稚園教諭の仕事の理解に向けて～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
1年	-	2	選択	必修	-	-	こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実際に幼稚園の生活や教育活動を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるよう指導する。

授業計画

- (1) 実習期間
2022年11月10日～11月25日（10日間）
- (2) 実習内容
 - ・観察、参加実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。
 - ・実習園の指導のもと、幼児の「前に立つ」ことを体験し省察する。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
 - ・マナーを守り、意欲的に取り組む。
 - ・礼儀正しく、謙虚な姿勢で学ぶ。
 - ・自分から進んで質問をし、実践的な学びを深める。
2. 知識および技能
 - ・幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む。
 - ・3歳児から5歳児の発達を理解し実習に臨む。
3. 実習日誌
 - ・各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができる。
 - ・幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できる。
 - ・幼児の姿を観察し、場面の記録を書くことができる。
 - ・「気づき」を書くことができる。
4. 指導案
※教育実習 I では、記録に重点を置き、指導案は教育実習 II の課題とする。
5. 手続きと提出物
 - ・期日を守り、自主的に進められる。

履修上の注意

- (1) 教育実習 I を実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①実習派遣条件科目の単位を修得していること
 - ②「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の授業に原則全出席していること
 - ③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
 - ④「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の到達目標に達していること
- (2) 教育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

予習・復習

- (1) 予習
 - ①実習先事前訪問にもとづいて、実習園の概要を理解する。
 - ②教育実習事前指導を受講し、実習の目標を定める。
 - ③実習中は次の日の実習課題を明確にするとともに、教材準備等に努める。
- (2) 復習
 - ①実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・幼稚園理解・幼児理解）および実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

使用教科書名

なし

教育実習指導(事前事後)(小学校) ～実り多い実習を実現して今後へ生かす～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
1年・2年	後期・前期	1	選択	-	必修	-	長沼 秀明

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

事前指導においては、各自が、小学校教育の役割と教育実習の意義・目的を理解し、実習への心構えを整えられるように指導する。
 事後指導においては、実習で学んだことを整理するとともに、今後の実践的指導力を培うために自らの課題を明確にできるよう指導する。

授業計画

第1回	【事前指導】ガイダンス、小学校における教育実習の意義・目的、教育実習の概要
第2回	教育実習上の諸注意 オリエンテーションへの参加 心構え
第3回	児童と学校生活 (1) 学校の現状・諸問題と対応
第4回	児童と学校生活 (2) 児童の諸問題と対応
第5回	教師の服務 (1) 学校目標、学年・学級の指導目標、校務分掌、教育環境、学期・月・週・日程および教師の仕事の流れ、カリキュラムと時間割
第6回	教師の服務 (2) 教科指導とその他の指導、学級運営、地域・保護者との連携・対応
第7回	指導の実際 (1) 実習生としての児童への接し方、言葉遣い・態度
第8回	指導の実際 (2) 場面指導の具体例
第9回	指導の実際 (3) 学習指導の実践事例—授業設計と教材研究—
第10回	指導の実際 (4) 学習指導の実践事例—授業設計と指導案の書き方—
第11回	指導の実際 (5) 学習指導の実践事例—授業実践—
第12回	指導の実際 (6) 学習指導の実践事例—授業評価—
第13回	教育実習参加についてのまとめ—教師としての抱負をもつ—、実習日誌の書き方
第14回	【事後指導】(1) 実習の報告・反省
第15回	(2) 実習のまとめ、各自の今後の課題
※1年間にわたる科目のため、実際には 20 回程度の授業回数となる予定。	

到達目標

事前指導を通じて、自信を持って教育実習へ臨むことができるよう十分な力を身につけること。また、事後指導を通じて、実習で学んだ成果を今後の教育実践に役立てられるよう万全の準備をすることができるようになること。

履修上の注意

- ・事前指導は、欠席が2割を超えた場合、実習を実施できない。
- ・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。

予習・復習

- ・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
- ・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

評価方法

授業の成果(模擬授業を含む) 100%

使用教科書名

- ・教科書名：『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館
- ・出版年：平成30年
- ・教科書名：『小学校教育実習ガイド(第2版)』
- ・著者名：石橋裕子・梅澤実・林幸範編著
- ・出版社名：萌文書林
- ・出版年：2019年

教育実習 I (小学校) ～より良い教師になるということ～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
1年	-	2	選択		必修		こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

- ・小学校における教科、特別の教科「道徳」、および特別活動について、その指導法を観察し、大学での講義と関連付けて理解を深める。
- ・児童について、各学年の相違を知・徳・体それぞれの発達面を勘案して学ぶ。
- ・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における教師の任務や役割等について理解を深める。

授業計画

第1回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第2回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第3回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介
第4回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第5回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第6回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第7回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第8回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第9回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第10回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第11回	クラス活動への参加。教科等指導。
第12回	クラス活動への参加。教科等指導。
第13回	クラス活動への参加。教科等指導。
第14回	クラス活動への参加。教科等指導。
第15回	教育実習反省会。教育実習Ⅱへの課題と準備の確認。

到達目標

教科、特別の教科「道徳」、特別活動について、実際にどういった授業がなされているか理解し、自ら授業案を作成できるよう課題を持つ。
教師の任務役割について理解し、自らが教育を行うことについて明確化する。

履修上の注意

実習は全出席するものであり、遅刻、早退は許されない。
また、社会通念から逸脱した行為があれば、実習の中止となる。

予習・復習

- ・予習：授業等の準備
- ・復習：実習日誌の作成

使用教科書名

石橋裕子・梅澤実・林幸範編著『小学校教育実習ガイド(第2版)』(事前指導で使用)
学習指導要領解説など大学で使用したもの及び実習先で指定のもの
教育実習日誌(小学校)

保育実習指導 I (事前事後) ～有意義な保育実習を行うために～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	-	-	必修

担当教員
関根・三沢・宮澤・小林

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育所における実習を円滑に進め学習効果を上げるために、実習生に必要な知識やスキルについての実習事前指導を行う。また、実習園の概要を把握し、実習への意欲を高めながら自己の課題を明確にし、効果的な保育実習の実施を目指し事前指導を行う。

実習終了後には、実習成果報告会を行い個々に実習での経験を整理するとともに、受講生が互いに学び合える場を設けるなど、保育実習Ⅲ・Ⅳに向けて自己課題を明確にするための事後指導を行う。

授業計画

第1回	【事前指導】 保育実習の概要と事前事後指導の流れ
第2回	実習生としてのマナーと心構え
第3回	保育所の生活と社会的役割
第4回	課題を明確にして保育実習に取り組むために
第5回	実習日誌の書き方(1) 記録の意義、記入上の諸注意
第6回	実習日誌の書き方(2) 記録のとり方、記入の仕方
第7回	実習日誌の書き方(3) 記録のとり方、記入の実際(ワーク)
第8回	実習先事前訪問(オリエンテーション)について
第9回	実習目標と課題の立て方
第10回	3歳未満児のディリープログラムと実習日誌の書き方
第11回	指導案の作成(1) 指導案を作成する意味と指導案の書き方
第12回	指導案の作成(2) 指導案作成の実際(ワーク)
第13回	指導案の作成(3) 指導案作成の実際(まとめ)
第14回	実習における諸注意と事前の自己チェック
第15回	【事後指導】 実習成果発表会・保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題

到達目標

- ・実習に関するマナーを理解するとともに、子どもの生活や遊びにおける関心をもって実習に臨む
- ・子どもの発達過程を理解し、実習に臨む
- ・実習日誌の意義・記入上の諸注意を理解し、日誌に具体的な記述ができるようになり実習に臨む
- ・期日を守り提出物や実習の手続きを自主的に進められる
- ・保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる

履修上の注意

- ・事前指導は、欠席が2割を超えた場合、実習を実施できない(講義要項 p.1 および p.16 参照)
- ・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること

予習・復習

- (1) 予習
 - ① 次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える
 - ② 実習先事前訪問にもとづき、自己の課題を明確にして実習に臨む
- (2) 復習
 - ① 課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める
 - ② 実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる

評価方法

授業態度・課題の提出物・出席状況により、総合的に評価する。

使用教科書名

厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館) 最新版
小櫃智子編「実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド」(わかば社) 2015年

保育実習指導Ⅱ(事前事後) ～有意義な施設実習とするために～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
1年	後期	1	選択	-	-	必修	野口・井上・小山内 ・齊藤・佐藤

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実習を円滑に進め学習効果を上げるために、実習に必要な知識やスキルについての実習事前指導を行う。また、実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習日誌の書き方、実習施設の特色等について事前指導を行う。

実習終了後には、実習先の講評や実習日誌、自己評価、実習成果報告会等を通して、実習のまとめと振り返りを行い、保育士としての目標、自己の課題が明確になるよう事後指導を行う。

授業は、特別支援学校での勤務経験を反映させて実施する。

授業計画

第1回	【事前指導】	保育実習Ⅱ(施設)の概要/実習事前事後指導の流れ
第2回		保育実習Ⅱ(施設)の意義/施設保育士の役割
第3回		子ども・利用者の人権と最善の利益
第4回		施設の理解(1)各種施設の概要
第5回		施設の理解(2)各種施設の子ども・利用者
第6回		施設の理解(3)各種施設における支援の実際
第7回		施設の理解(4)保育士(支援者)の役割
第8回		特別なニーズを持つ対象との対人関係のづくり方
第9回		実習日誌の書き方(1)実習施設の概要
第10回		実習日誌の書き方(2)施設での日々の記録を書くために
第11回		実習日誌の書き方(3)施設での場面記録を書くために
第12回		実習の課題・毎日の課題の意義と立て方
第13回		実習における諸注意と事前の自己チェック
第14回	【事後指導】	実習成果発表会
第15回		保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題

到達目標

- ・人権を理解し尊重する態度を身につけて実習に臨む。
- ・施設の役割と社会的な位置づけ、施設の現状(生活、職員の役割)を理解して実習に臨む。
- ・観察することの意味を理解して実習に臨む。
- ・記録の取り方・記入の仕方を理解して実習に臨む。
- ・期日を守り、提出物や実習の手続きを自主的に進められる。
- ・保育実習Ⅱを振り返り、保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる。

履修上の注意

- ・事前指導(13回)の欠席が2割を超えた場合、実習はできない。
- ・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。

予習・復習

- ・予習：①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
②自己の課題を明確にして実習に臨む。
- ・復習：①課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。
②実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

使用教科書名

- ・守巧他著『施設実習パーフェクトガイド』(わかば社)2014年
- ・「実習のてびき」(川口短期大学より配布)
- ・厚生労働省『保育所保育指針解説書』(平成29年度告示)

保育実習 I (保育所) ～保育所の機能・子ども理解に向けて～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
1年	-	2	選択	-	-	必修	こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実際に保育所の生活を体験する中で、保育所の機能、保育所での乳幼児の生活とその流れ、保育士の職務・役割、「養護」と「教育」を一体として行う保育所保育の基本等について理解できるように指導する

授業計画

- (1) 実習期間
2023年2月・3月の間の2週間、90時間以上の実習を行う（実習園により日程が異なる）。
- (2) 実習内容
①観察・参加実習を中心とし、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する
②各実習園のご指導の下、部分実習を行う

到達目標

- 1. 実習生の姿勢・態度**
 - ・保育実習に関するマナーを学ぶ
 - ・安全に配慮できる
 - ・子どもの生活や遊びにおける関心を高める
- 2. 知識および技能**
 - ・デイリープログラムを理解する（子どもの一日と保育者の一日を理解する）
 - ・信頼関係を築くための技能を身につける
 - ・子どもの発達過程を理解する
- 3. 実習日誌**
 - ・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する
 - ・記録のとり方・記入の仕方を学ぶ
- 4. 指導案**
 - ・指導案とは何かを知る
- 5. 手続きと提出物**
 - ・期日を守り、自主的に進められる

履修上の注意

- (1) 保育実習 I を実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
- ①実習派遣条件科目の単位を修得していること
 - ②「保育実習指導 I (事前事後)」の授業に原則全出席していること
 - ③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
 - ④「保育実習指導 I (事前事後)」の到達目標に達していること
- (2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

予習・復習

- 予習：①実習先事前訪問にもとづき、実習園の概要理解に努める
②保育実習事前指導を受け準備学習をする。実習の目標を定め、実習日誌に記載する
③実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める
- 復習：実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・保育所理解・幼児理解）及び実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

使用教科書名

とくになし

保育実習Ⅱ（施設） ～施設保育士の役割と子ども・利用者援理解について～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
1年	-	2	選択	-	-	必修	こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

施設での生活や療育を実際に体験する中で、施設の機能や施設での生活と流れを知り、子ども・利用者を理解し、援助の仕方や方法、施設保育士の職務等について理解できるよう指導する。

授業計画

- (1) 実習期間実習時間
2023年2月・3月の間の2週間、90時間の実習を行う（実習施設により異なる）。
- (2) 実習内容
観察・参加実習を中心とする（実習施設によっては部分実習を行う場合がある）。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
 - ・人権を理解し尊重する態度を身につける。
 - ・施設実習を通し自己の成長を目指す。
 - ・観察することの意味を理解して実践する。
2. 知識および技能
 - ・信頼関係を築くための技能を身につける。
 - ・施設の役割と社会的な位置づけを知る。
 - ・施設の現状（生活、職員の役割）を理解する。
3. 実習日誌
 - ・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する。
 - ・記録の取り方・記入の仕方を学ぶ。
4. 指導案
 - ・部分実習の具体例を学ぶ。
5. 手続きと提出物
 - ・期日を守り、自主的に進められる。

履修上の注意

- (1) 保育実習Ⅱを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①実習派遣条件科目の単位を修得していること。
 - ②「保育実習指導Ⅱ（事前事後）」の授業に原則全て出席していること。
 - ③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
 - ④「保育実習指導Ⅱ（事前事後）」の到達目標に達していること。
- (2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。保育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

予習・復習

- ・予習
 - ① 実習先への事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める。
 - ② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
 - ③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。
- ・復習 実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

評価方法

施設による評価（実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

使用教科書名

なし

音楽Ⅲ ～保育者・教育者としての音楽実践力の育成～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	選択必修	選択必修	選択必修

担当教員
宮澤・佐藤(良)・館岡・山口(茜)・山口(亜)・松山

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

「音楽Ⅱ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを45分交代で実施する。音楽Ⅰ、Ⅱ及び保育内容（表現・音楽）で学んだ内容を発展させ、保育者・教育者としての音楽実践力を高めるために、歌唱・ピアノ等の音楽表現、音楽活動の模擬実習、音楽の基礎的な理論（楽典）を指導する。

クラス授業では、音楽文化財である「季節のうた」と「わらべうた」を取り上げ、子どもの生活の中で歌い継がれてきたうたの楽しさを感じ取り、音楽的特徴を理解する。また、教育実習に向けて音楽指導の模擬実習を計画し、発表を行う。同時に他者の模擬実習を子どもの目線をもって体験し、協働的に学ぶ。音楽の基礎的な理論（楽典）では、記譜法について学び、楽譜の書き方を身に付ける。

ピアノの個人レッスンでは、子どもが親しみやすい行進曲や芸術曲の演奏に取り組み、楽曲のイメージを広げたりふさわしい音楽表現を工夫したりしながら、ピアノ演奏の技能を高める。

授業計画

第1回	オリエンテーション、季節のうた①（6月）	個人レッスン【春休み課題】
第2回	楽典①記譜法（楽譜の書き方の基本）	個人レッスン（行進曲）
第3回	楽典②記譜法（両手伴奏の楽譜の作成）	個人レッスン（行進曲）
第4回	わらべうた①（「わらべうた」の音楽的特徴）	個人レッスン（行進曲）
第5回	わらべうた②（伝承遊び体験と指導法）	個人レッスン（行進曲）
第6回	わらべうた③（伝承遊び体験と指導法）	個人レッスン（行進曲）
第7回	【音楽活動の模擬実習（発表と体験・振り返り）】	
第8回	【中間実技試験（「季節のうた」の弾き歌い／「行進曲」のピアノ演奏）】	
第9回	季節のうた②（夏）、教育実習での音楽指導の振り返り	個人レッスン（芸術曲）
第10回	季節のうた③（秋）	個人レッスン（芸術曲）
第11回	季節のうた④（冬）	個人レッスン（芸術曲）
第12回	季節のうた⑤（春）	個人レッスン（芸術曲）
第13回	ミュージックベル・トーンチャイムの実技と指導法①	個人レッスン（芸術曲）
第14回	ミュージックベル・トーンチャイムの実技と指導法②	個人レッスン（芸術曲）
第15回	期末試験（芸術曲のピアノ演奏）リハーサル	個人レッスン（芸術曲）

到達目標

- ・自身の演奏技能に応じ、両手伴奏や片手伴奏によって「季節のうた」の弾き歌いができる。
- ・記譜法の基礎を理解し、伴奏楽譜を書くことができる。
- ・教育実習で実現したい音楽活動の模擬実習を計画し、発表することができる。
- ・楽曲の良さや美しさなどを感じ取り、イメージを広げながらふさわしい音楽表現を工夫して歌ったりピアノを演奏したりすることができる。

履修上の注意

- ・幼稚園教諭及び保育士の資格取得予定者は履修すること。
- ・遅刻は3回で1回欠席とする。授業開始後20分以降は欠席扱いとする。
- ・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなるので注意すること。

予習・復習

- ・予習：ピアノの個人レッスンで次回までに指示された楽曲を演奏できるように毎日練習する。
- ・復習：授業で学習した楽曲やピアノレッスンで合格した既習曲の弾き歌いやピアノ演奏を週2回程度練習し、保育者となるためのレパートリーとして維持する。

評価方法

実技試験 50%（中間 20%・期末 30%） 課題 30%（模擬授業 20%・記譜 10%） 学習態度 20%

使用教科書名

- ・「音楽Ⅱ」の教科書『3つのコードで楽しく弾ける ピアノ伴奏集』を引き続き使用する。
- ・資料を配布するため、保存用のスクラップブックとのりを毎回必ず持参すること。

音楽Ⅳ ～保育・教育現場における実践力及び指導力を身に付ける～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	-	-	-

担当教員
齊藤・宮澤

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

選択人数や学習内容により指導形態は変わるが、第8回までは合同授業と個人レッスンを、第9回からは合同授業を中心に行う。保育・教育現場での実践にすぐに役立つ教材の演習を通し、実践法や指導法を身に付けられるよう、全ての回について小・中学校教員の実務経験を活かして指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス, 初見演奏①, 音色の違いに注目したボディパーカッション	
第2回	初見演奏②, 身近な言葉に置き換えたリズム唱の演習	個人レッスン
第3回	初見演奏③, ボディパーカッションによるアンサンブル	個人レッスン
第4回	初見演奏④, ボイスパーカッションによるアンサンブル	個人レッスン
第5回	初見演奏⑤, 保育実践での器楽教材の演習①連弾・重奏に向けて	個人レッスン
第6回	初見演奏⑥, 「あくび」「ため息」「犬のおなか」を模倣した発声法	個人レッスン
第7回	初見演奏⑦, 保育実践での歌唱教材の演習①活舌をよくするための歌	個人レッスン
第8回	中間実技試験	
第9回	保育実践での器楽教材の演習②器楽合奏に向けて	
第10回	保育実践での器楽教材の演習③器楽合奏に向けた練習方法について	
第11回	保育実践での器楽教材の演習④器楽合奏	
第12回	保育実践での器楽教材の演習⑤指揮法	
第13回	保育実践での歌唱・器楽教材の演習①劇あそび体験	
第14回	楽譜作成に関する演習①楽譜作成ソフトの使い方	
第15回	保育実践での器楽教材の演習⑥連弾・重奏発表に向けて	

到達目標

就職後の音楽活動について、柔軟な感覚と実践力を持って指導できるための力を養う。

履修上の注意

大学で個人レッスンを受けられる最後の授業であるが、音楽Ⅰ～Ⅲのようにレッスンの先生はおらず、授業者がレッスンを行うため、これまで以上にレッスン時間は非常に短くなる。そのため、短時間のレッスンが有効に機能するよう必ず練習をして授業に臨むこと。また、個人レッスンが受けられない日もあるが、その場合は個人練習をしっかりと行うこと。さらに、連弾・重奏は一人ではできないため、ペア・グループで合わせる時間を作って練習を進めること。

なお、履修希望者が多く定員に達した場合は、履修届の先着順とする。

遅刻3回で1欠席扱いとします。

予習・復習

レパトリーを増やすためには、予習・復習となる練習が必須である。

評価方法

実技試験 70%(中間 30%・期末 40%)	連弾・重奏発表 10%	学習態度・練習状況・提出物 20%
-------------------------	-------------	-------------------

使用教科書名

- ・音楽Ⅰ～Ⅲで使用した教科書
- ・その他、適宜、資料を配布する(A4サイズのスクラップブックを準備すること)

家庭 ～小学校家庭科で何を学ぶのか～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	-	選択必修	-

担当教員
三沢 徳枝

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

家族の生活や衣食住、消費と環境に関する生活事象を振り返り、生活者の視点から講義をする。履修者が小学校家庭科の授業担当者として、児童が持続可能な社会の一員として、生活をより良くする方法を考え工夫できるように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス 小学校家庭科で学習する内容について
第2回	家庭生活と家族 ①自分と家族の生活
第3回	家庭生活と家族 ②地域の多様な世代との関わり
第4回	消費生活と環境 ①金銭の役割と契約、消費者教育と金融教育
第5回	消費生活と環境 ②持続可能な社会、環境に配慮した生活の工夫
第6回	衣食住の生活 ①衣服の機能と取り扱い
第7回	衣食住の生活 ②基礎的な縫い方
第8回	衣食住の生活 ③生活を豊かにする物の製作（手縫い）
第9回	衣食住の生活 ④生活を豊かにする物の製作（ミシン縫い）
第10回	衣食住の生活 ⑤食事の役割と献立作成、災害への備え
第11回	衣食住の生活 ⑥食育と味覚教育
第12回	衣食住の生活 ⑦調理の基礎と食文化
第13回	衣食住の生活 ⑧住まいの機能、新しい住まい方
第14回	衣食住の生活 ⑨住まいの機能、集住と共生
第15回	振り返りとまとめ

到達目標

健康で安心・安全・快適な生活を送るために必要な基礎的・基本的な知識、技能を習得する。持続可能な社会における協働や共生について考え、より良い生活を改善工夫する態度を身につける。

履修上の注意

製作実習では事前に材料と道具を各自用意する。授業開始から30分以内の遅れは遅刻とする。

予習・復習

- ・予習：学習範囲を見直しておく
- ・復習：配布資料等を整理し学習内容を振り返る

評価方法

授業内レポート、テスト 60%	製作物、課題 30%	発表 10%
-----------------	------------	--------

使用教科書名

- ・教科書名：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館出版社
- ・出版年：平成30年

保育内容(人間関係) ～子どもと保育者でつくる人間関係～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	必修	-	必修

担当教員
岩崎 桂子

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

本授業では、乳幼児の人間関係について、毎回、乳幼児の園生活の塩蔵資料を紹介し、人と関わる力や心の働きが育つ過程の長期的な見通しが持てるように解説する。そしてそれを支える保育者の関わりについて具体的な指導・援助の行為とその背景にある心の働きを見取ることができる見方を養成する。さらに現代の家庭や地域における人間関係の特徴と課題について、保育を営む上で基本的な認識を解説する。受講生自らで考え、実践で生かせるようなディスカッションや事例検討を行う。

授業計画

第1回	オリエンテーション：人間関係とは何かを解説する
第2回	乳幼児期の「人間関係」がその後の「人間関係」に及ぼす影響
第3回	保育における「人間関係」を学ぶ領域「人間関係」-
第4回	保育者が作る「人間関係」-保育者が築く「人間関係」-
第5回	0歳児と人の関わる力の育ちについて-安心できる人との関わりについて事例検討-
第6回	1歳児と人の関わる力の育ちについて-周囲のもの、人への興味の広がりについて事例検討-
第7回	2歳児と人の関わる力の育ちについて-自我の芽生え、自己主張を支える事例検討-
第8回	3歳児の人と関わる力の育ちについて-ケンカを通じた心の育ちと保育者の関わりについて事例検討-
第9回	4歳児の人と関わる力の育ちについて-個人と集団の関係について事例検討-
第10回	5歳児の人と関わる力の育ちについて-集団意識、協調性について事例検討-
第11回	6歳児の人と関わる力の育ちについて-協力してやり遂げる関係について事例検討-
第12回	幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の連携について
第13回	人間関係の育ちを見通した保育計画を考える-グループワーク-
第14回	人間関係の育ちを見通した保育計画を考える-グループワーク発表-
第15回	多様化する社会の人間関係-保育者として学び合い、育つとは-まとめ

到達目標

- ・人と関わる力が育つ過程について、乳児期から幼児期の終わりまでの見通しを理解する。
- ・人間関係が育つ保育の基本的なあり方について、保育者の意図を見取って理解する。
- ・多様化する保育の特徴と課題について理解し、向き合う姿勢を身につける。

履修上の注意

- ・映像資料で使用するワークシートを保管するファイルを用意する。
- ・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
- ・遅刻（授業開始20分）3回で欠席1回とする。

予習・復習

- ・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
- ・復習：返却されたワークシートを見直しておく。必要に応じて授業外でグループでの話し合いを進めておく。

評価方法

学期末試験 50%	授業内ワークシート 30%	受講態度 20%
-----------	---------------	----------

使用教科書名

- ・教科書名：子どもと保育者でつくる人間関係-「わたし」から「わたしたち」へ-第2版
- ・著者名：編者：横山真貴子
- ・出版社名：教育情報出版
- ・出版年：2019年

初等教科教育法（音楽）～音楽科の授業づくりに必要な理論と指導法の演習～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	-	選択必修	-

担当教員
齊藤 淳子

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

小学校音楽科の目標や指導内容、指導計画、指導展開及び評価を含めた基礎的な理論、情報通信技術の活用について理解を深めるとともに、学習指導案作成と模擬授業の実践を通して音楽科の授業づくりについて学ぶ。また、教材研究の方法を含めた音楽科の授業づくりについて、小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス、小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容について
第2回	音楽科の指導内容と指導計画及び評価、音楽教育主要用語について
第3回	「歌唱」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信記述の活用）
第4回	「器楽」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第5回	「鑑賞」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第6回	「音楽づくり」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第7回	学習指導案の理解、ワークシートづくりについて
第8回	学習指導案の作成、ワークシートの作成
第9回	音楽教育史及び音楽史について
第10回	中間筆記試験（学習指導要領等、教員採用試験対策）及び解説
第11回	「歌唱」の模擬授業
第12回	「器楽」の模擬授業
第13回	「鑑賞」の模擬授業
第14回	「音楽づくり」の模擬授業
第15回	まとめ、音楽科における関連と連携

到達目標

小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容、指導計画、指導展開、評価等について理解した上で、学習指導案を作成し、授業を実践することができる力を身につける。

履修上の注意

- ・現場に出た際に、「音楽専科がいるから大丈夫」と思わず、音楽専科がない学校へ着任したり、自分が音楽専科になる可能性もあるということを念頭に置いて授業を受けること。
- ・模擬授業は教師・児童役を体験します。少人数での授業ですので、意欲的に取り組みましょう。
- ・ソプラノリコーダーまたは鍵盤ハーモニカを使用する予定です。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により別の楽器で代用する場合があります。
- ・学習指導案やワークシートについてはパソコンで作成してもらいますので、パソコンが苦手な人は、基本的な操作や文字の打ち込みに慣れておきましょう。
- ・遅刻3回で1欠席扱いとします。

予習・復習

- ・予習：音楽の各技能の向上を目指すには、日々の練習が欠かせません。演習がある際は、必ず事前に練習をして授業に臨みましょう。
- ・復習：学習指導要領や配布資料を熟読し、内容の理解に努めましょう。特に前半は、教員採用試験対策も含めています。

評価方法

筆記試験（40%）	学習指導案・模擬授業（40%）	学習態度・課題提出（20%）
-----------	-----------------	----------------

使用教科書名

- ・教科書名：『三訂版 小学校音楽科の学習指導 ー生成の原理による授業デザインー』
- ・著者名：小島律子（監修）
- ・出版社名：廣済堂あかつき株式会社
- ・出版年：2018年
- *その他、適宜、資料を配布する（スクラップブックを準備すること）

初等教科教育法(図画工作)

～図工で育てる思考力、判断力、表現力～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	選択必修	-

担当教員
木谷 安憲

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

小学校の教育課程における図画工作科における役割や性格について講義し、それを踏まえて実技制作を行う。1学年から6学年までの作品制作をする中で、教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識・理解を習得できるよう、授業全体を通して指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス(受講者自身の振り返り。小学校時代の図工に関して)
第2回	図画工作科の目標および内容
第3回	第1・2学年の目標と内容について講義をする
第4回	第1・2学年の目標と内容についての演習を行う
第5回	第3・4学年の目標と内容について講義をする
第6回	第3・4学年の目標と内容についての演習を行う
第7回	第5・6学年の目標と内容について講義をする
第8回	第5・6学年の目標と内容についての演習を行う
第9回	模擬授業のための指導案を書く
第10回	模擬授業1
第11回	模擬授業2
第12回	模擬授業3
第13回	模擬授業4
第14回	授業分析と授業評価について講義・演習を行う
第15回	まとめ(情報機器及び教材の活用を含む)

到達目標

小学校図画工作科の教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を培うことを目標とする。

履修上の注意

実技を行うための描画材や材料は各自用意する。
30分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻3回で1回の欠席とする

予習・復習

- ・予習：次回の授業で扱われる学年部分の小学校学習指導要領を読む。
- ・復習：制作した作品を、小学校学習指導要領に書かれている部分を踏まえて振り返る。

評価方法

指導案・課題作品(70%)	レポート(30%)
---------------	-----------

使用教科書名

- ・教科書名：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：日本文教出版
- ・出版年：2018年

初等教科教育法（家庭） ～小学校家庭科の内容と指導方法～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	選択必修	-

担当教員
三沢 徳枝

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

小学校家庭科を指導するために、家庭科の意義や目標、教科の特性、指導方法等について講義する。社会の変化や児童の実態に対応した指導上の配慮をしながら指導方法を工夫して、学習指導案を作成し、さらに授業改善に取り組むことが出来るように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス、家庭科教育の変遷と家庭科で育む資質・能力
第2回	家庭科を学ぶ意義（位置づけと中学校技術・家庭との系統性）
第3回	小学校学習指導要領の目標と家庭科の目標
第4回	小学校家庭科の内容（指導上の留意点及び他教科との関連）
第5回	小学校家庭科の授業づくり（学習指導の特徴と方法、学習指導計画と評価計画）
第6回	学習指導案の作成と指導の留意点
第7回	教材研究①（家族・家庭生活の授業とガイダンス的内容の扱い）
第8回	教材研究②（課題解決学習の進め方）
第9回	教材研究③（衣食住の生活の授業）
第10回	教材研究④（消費生活・環境に関する授業）
第11回	指導方法の工夫①（ICTを活用した授業の設計）
第12回	指導方法の工夫②（逆向き設計の授業とパフォーマンス課題）
第13回	模擬授業①情報機器を活用する授業
第14回	模擬授業②つまづきのある児童への指導方法の工夫
第15回	家庭科教育の課題とまとめ

到達目標

小学校家庭科の意義や目標、教科の特性を理解し、実践研究の動向を踏まえて、児童の実態を視野にいれた授業設計ができる。他教科との関連や中学校との系統性を考慮し教材研究を行い、指導上の配慮や学習評価を理解して学習指導案を作成できる。模擬授業では授業の振り返りを通して、授業改善の視点を持ち実践に生かせる。

履修上の注意

使用教科書を用意する。参考図書として小学校家庭科教科書を用いる。授業開始から30分以内を遅刻とする。

予習・復習

- ・予習：学習する範囲の学習指導要領解説や教科書を読む
- ・復習：学習した内容を振り返り、教科書で確認する

評価方法

授業内レポート、テスト 60%	模擬授業 30%	発表 10%
-----------------	----------	--------

使用教科書名

教科書名：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編

- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館出版社
- ・出版年：平成30年

教科書名：新しい教職教育講座 教科教育編8 初等家庭科教育

- ・著者名：三沢徳枝/勝田映子編著
- ・出版社名：ミネルヴァ書房
- ・出版年：2020年

子どもの食と栄養Ⅱ ～子育ての食支援～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	-	-	必修

担当教員
三沢 徳枝

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

家庭や児童福祉施設における幼児期、学童期から思春期の子どもの食生活の現状と課題を概観し、望ましい食生活のための食育の意義・目的・基本的考え方、内容等を指導する。家庭や保育所等における特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、関連するガイドラインやデータを踏まえて指導する。そして特別な配慮を要する子どもへの対応について実践的手法の理解を深められるように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス、子どもの食と栄養Ⅰの振り返り
第2回	子どもの発育・発達と食生活 ①幼児期、思春期の心身の特徴と食生活
第3回	子どもの発育・発達と食生活 ②学童期の心身の特徴と食生活、成人期の食生活 栄養上の問題と健康への対応
第4回	食育の基本と内容 ①学校における給食及び食育の推進
第5回	食育の基本と内容 ②保育における食育の意義と考え方 保育所保育指針における食育の推進
第6回	食育の基本と内容 ③地域や家庭と連携した食育の展開
第7回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 ①家庭における食事と栄養
第8回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 ②児童福祉施設における食事と栄養
第9回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ①疾病及び体調不良の子どもへの対応
第10回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ②アレルギー疾患を持つ子どもへの対応
第11回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ③障がいのある子どもへの食事と対応 摂食・嚥下障がい児の食事
第12回	家庭や保育所等における食育・栄養教育 ①食を通じた保護者への支援
第13回	家庭や保育所等における食育・栄養教育 ②保育所における給食と保護者との連携
第14回	家庭や保育所等における食育・栄養教育 ③地域資源との連携
第15回	学習の振り返りとまとめ

到達目標

家庭や児童福祉施設における子どもの食生活の現状と課題を知り、望ましい食生活のための食育の基本と内容が理解できる。家庭や保育所等における特別な配慮を要する子どもへの対応について、指導の実践化への道筋を掴むことが出来る。

履修上の注意

子どもの食と栄養Ⅰの履修者が望ましい。また、授業開始から30分以内の遅れは遅刻とする。最後のまとめで授業時に指示した資料や配布資料及び課題を使用するので整理しておく。グループ討議等の学習活動に積極的に参加する。

予習・復習

- ・予習：テキストや指示された資料を読み、Teamsの課題をする。
- ・復習：学習した内容を課題に追記して復習する。

評価方法

授業内レポート・テスト	60%	課題	30%	発表	10%
-------------	-----	----	-----	----	-----

使用教科書名

- ・教科書名：子どもの食と栄養～保育現場で活かせる食の基本
- ・著者名：太田百合子・堤ちはる編著
- ・出版社名：羊土社
- ・出版年：2019年

特別支援論Ⅱ(乳・幼児への支援方法) ～特別な支援を要する乳・幼児への適切な支援を行うために～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	必修	-	必修

担当教員
井上 昌士

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

特別支援論Ⅰの内容を踏まえ、特別な支援を要する子どもの支援について、以下の3点を重点的に指導する。

- 障害児保育の基本的知識
- 子どもの理解と発達の援助
- 家庭及び関係機関との連携

授業計画

第1回	オリエンテーション 「障害のある子どもとは」
第2回	気になる子どもとは
第3回	障害に関する法律・制度の理解
第4回	障害のある子どもの特徴(1) 感覚と運動
第5回	障害のある子どもの特徴(2) 認知・コミュニケーション
第6回	障害のある子どもの保育における理解
第7回	障害のある子どもに配慮した環境設定
第8回	障害のある子どもに配慮した関わりとコミュニケーション
第9回	障害のある子どもと他の子どもとの関わり
第10回	保護者・家族との理解と支援
第11回	地域の関係機関との連携と個別の支援計画
第12回	就学支援と小学校との連携
第13回	個別支援計画の作成と観察・記録・評価
第14回	インクルーシブ保育について
第15回	まとめ 障害児保育の現状と課題

到達目標

- 特別な支援を要する子どもへの具体的な支援方法を理解する。
- 関係する専門機関の機能やその役割について理解する。
- 保護者への支援について、その具体的な方法や内容について理解する。
- 保育の記録や個別の支援計画の役割や必要性、活用について理解する。

履修上の注意

- 授業中の基本的なマナーを守ること。
- 遅刻3回で欠席1回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は、必ず授業資料を受け取りに来ること。

予習・復習

- 予習：次回の授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読み、概要を把握しておく。
- 復習：教科書と授業で使用した資料等を使って学んだ内容を整理し確認する。

評価方法

学期末試験 60%	提出物、授業内レポート等 20%	受講態度 20%
-----------	------------------	----------

使用教科書名

- 教科書名：障害児保育
- 著者名：監修 市川奈緒子
- 出版社名：ミネルヴァ書房
- 出版年：2020年
- 各回資料(PPTスライド等)を配布する。

特別支援論Ⅲ(児童への支援方法) ～特別な教育的ニーズを要する児童に要する具体的な支援～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	-	必修	-

担当教員
井上 昌士

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

特別支援論Ⅰの内容を踏まえ、小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援について、具体的な支援や指導内容等の検討・演習を通して以下の4点を重点的に指導する。

- 小学校における特別支援教育体制
- 特別な教育的ニーズを要する児童への具体的な支援方法
- 各教科等における指導内容や指導方法の工夫
- 通常の学級、通級による指導、特別支援学級における指導の実際

授業計画

第1回	オリエンテーション 特別な教育的ニーズとは インクルーシブ教育とは
第2回	小学校における特別支援教育体制の理解
第3回	学習指導要領から読み解く小学校における特別支援教育
第4回	「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成と活用
第5回	ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた支援の工夫
第6回	知的障害児への支援
第7回	肢体不自由児、病弱・身体虚弱児への支援
第8回	視覚障害児、聴覚障害児への支援
第9回	発達障害のある児童への支援
第10回	各教科等における指導内容や指導方法の工夫①
第11回	各教科等における指導内容や指導方法の工夫②
第12回	各教科等における指導内容や指導方法の工夫③
第13回	特別支援教育コーディネーターと校内支援体制及び保護者への支援
第14回	母国語や貧困の問題により特別な支援を要する児童への支援
第15回	まとめ

到達目標

- 指導の実際を知り、小学校における特別支援教育体制を理解する。
- 特別な教育的ニーズを要する児童への具体的な支援方法を理解する。
- 各教科等における具体的な指導内容や指導方法の工夫について理解する。

履修上の注意

- 授業中の基本的なマナーを守ること。
- 遅刻3回で欠席1回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は、必ず授業資料を受け取りに来ること。

予習・復習

- 予習：次回の授業内容に関連する学習指導要領等の該当部分を事前に確認しておく。必要に応じて課題を提示する。
- 復習：教科書と授業で使用した資料等を使って学んだ内容を整理し確認する。

評価方法

学期末試験 60%	提出物、授業内レポート等 20%	受講態度 20%
-----------	------------------	----------

使用教科書名

- 教科書名：①小学校学習指導要領②小学校学習指導要領解説総則編③特別支援学校学習指導要領解説自立活動編
- 著者名：①～③文部科学省
- 出版社名：①②東洋館出版社 ③開隆堂出版
- 出版年：①～③2018
- 各回資料(PPTスライド等)を配布する。

在宅保育 ～ベビーシッターの仕事～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	-	選択必修

担当教員
関根 久美

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

ベビーシッターの職務について、教科書解説、DVD 視聴、演習などを通して、具体的、実践的に学ぶ。施設保育と家庭訪問保育の共通点、差異を指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	子ども子育て支援新制度における「居宅訪問型保育」と「ベビーシッター」について
第 3 回	一般的ベビーシッターの業務について
第 4 回	子どもの発達とそのケア①
第 5 回	子どもの発達とそのケア②
第 6 回	子どもの発達とそのケア③
第 7 回	子どもの発達とそのケア④
第 8 回	産後ケアについて（解説）
第 9 回	産後ケアについて（演習①）
第 10 回	産後ケアについて（演習②）
第 11 回	子どもの遊びについて
第 12 回	様々な依頼への対応
第 13 回	安全管理について
第 14 回	保育計画、保育報告について
第 15 回	振り返りとまとめ

到達目標

ベビーシッターの職務について理解する。その理解が的確で実践することができるか否かの試験に合格し、認定資格を取得する。

履修上の注意

保育士資格取得者としてのベビーシッター認定資格取得を目的とする授業であることを自覚して受講すること。

遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

予習・復習

- ・予習：テキストを熟読しておく。
- ・復習：演習したことは、自宅などで振り返り実践してみる

評価方法

試験 90%	授業態度 10%
--------	----------

使用教科書名

- ・教科書名：家庭訪問保育の理論と実践
- ・著者名：公益社団法人全国保育サービス協会 監修
- ・出版社名：中央法規出版
- ・出版年：2019 年

教育実習指導(事前事後)(幼稚園)

～教育実習を有意義な体験にするために～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1・2年	後期・前期	1	選択	必修	-	-

担当教員
野口・木谷・関根・ 佐々木・小林

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ(幼稚園)それぞれについて、実習に向けての事前指導と実習を終えてからの事後指導を講義する。

授業計画

第1回	教育実習の概要と事前事後指導の流れ
第2回	実習先事前訪問(オリエンテーション)について
第3回	実習生としてのマナーと心構え
第4回	課題を明確にして教育実習に取り組むために
第5回	実習日誌について①—日誌の意義を理解する
第6回	実習日誌について②—日誌の書き方を学ぶ
第7回	「教育実習Ⅰ」の振り返りと「教育実習Ⅱ」に向けた自己課題
第8回	「教育実習Ⅱ」学内オリエンテーション
第9回	「教育実習Ⅱ」実習先事前訪問(オリエンテーション)について
第10回	実習日誌について③—場面の記録の書き方を理解する
第11回	指導案作成①—指導案の意義を理解する
第12回	指導案作成②—指導案の書き方を学ぶ
第13回	指導案作成③—指導案に沿った保育の展開を理解する
第14回	教育実習Ⅱの課題と心構え
第15回	「教育実習Ⅱ」の振り返りと今後の課題

到達目標

1. 教育実習Ⅰ

- ・マナーを守り、意欲的に教育実習Ⅰに取り組むために課題を明確して実習に臨む。
- ・3歳から5歳の発達を理解し、幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む。
- ・保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができるようになり実習に臨む。
- ・期日を守り提出物や実習の手続きを自主的に進められる。
- ・教育実習Ⅰを振り返り、教育実習Ⅱの課題を明確にできる。

2. 教育実習Ⅱ

- ・実習園の特色や保育方針等を理解し、課題を明確にして実習に臨む。
- ・保育者の援助の意図を感じ取り、「気づき」を日誌に書くことができるようになって実習に臨む。
- ・＜導入、展開、まとめ＞の一連の流れを指導案として作成できる。
- ・子どもの姿を予測し配慮事項や留意点を挙げることができ、指導計画の準備をして実習に臨む。
- ・期日を守り提出物や実習の手続きを計画的に進められる。
- ・教育実習Ⅱを振り返り、今後の課題を明確にできる。

履修上の注意

- ・事前指導は、欠席が2割を超えた場合、実習を実施できない。
- ・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。

予習・復習

- (1) 予習：次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
- (2) 復習：課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。

評価方法

授業態度・課題の提出物・出席状況により、総合的に評価する。

使用教科書名

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、最新版
小櫃智子編『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社、2015年

教育実習 I (幼稚園)

～幼児理解・幼稚園教諭の仕事の理解に向けて～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
1年	-	2	選択	必修	-	-	こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実際に幼稚園の生活や教育活動を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるよう指導する。

授業計画

- (1) 実習期間
2022年11月10日～11月25日（10日間）
- (2) 実習内容
 - ・観察、参加実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。
 - ・実習園の指導のもと、幼児の「前に立つ」ことを体験し省察する。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
 - ・マナーを守り、意欲的に取り組む。
 - ・礼儀正しく、謙虚な姿勢で学ぶ。
 - ・自分から進んで質問をし、実践的な学びを深める。
2. 知識および技能
 - ・幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む。
 - ・3歳児から5歳児の発達を理解し実習に臨む。
3. 実習日誌
 - ・各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができる。
 - ・幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できる。
 - ・幼児の姿を観察し、場面の記録を書くことができる。
 - ・「気づき」を書くことができる。
4. 指導案
※教育実習 I では、記録に重点を置き、指導案は教育実習 II の課題とする。
5. 手続きと提出物
 - ・期日を守り、自主的に進められる。

履修上の注意

- (1) 教育実習 I を実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①実習派遣条件科目の単位を修得していること
 - ②「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の授業に原則全出席していること
 - ③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
 - ④「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の到達目標に達していること
- (2) 教育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

予習・復習

- (1) 予習
 - ①実習先事前訪問にもとづいて、実習園の概要を理解する。
 - ②教育実習事前指導を受講し、実習の目標を定める。
 - ③実習中は次の日の実習課題を明確にするとともに、教材準備等に努める。
- (2) 復習
 - ①実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・幼稚園理解・幼児理解）および実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

使用教科書名

なし

教育実習Ⅱ（幼稚園）

～幼稚園教諭として必要な能力・技術について学ぶ～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
2年	-	2	選択	必修	-	-	こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教育実習Ⅰでの経験を基礎として、観察や指導案に基づいた実践を行う。幼稚園の教育理念や教育課程を把握し、「個」と「集団」の理解、幼稚園教諭の職務に対する理解等がさらに深まるよう指導する。また、指導案を作成し実践的な体験を通して学べるよう指導する。

授業計画

- (1) 実習期間
2023年6月5日～6月16日（10日間）
- (2) 実習内容
参加実習の他、指導案を作成し部分実習・責任実習を行い、実践的に学ぶ。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
 - ・実習園の特色や保育方針等を理解し、課題を明確にして実習に臨む
 - ・「今日の課題」を考察し、「明日の課題」を明確にしながら学びを積み上げようとする
 - ・「個」と「集団」に積極的に関わり、観察し学びを深める
2. 知識および技能
 - ・保育におけるPDCAサイクルを理解する
 - ・ピアノや絵本の読み聞かせなど、保育技術を磨いて実習に臨み、実践の場においてさらなる向上を目指す
 - ・幼児の言動から心情を感じ取りながら、関わることができる
3. 実習日誌
 - ・保育者の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる
 - ・「個」と「集団」の姿を記録できる
 - ・幼児との関わりを詳細に記録し、省察することができる。
4. 指導案
 - ・子どもの姿を予測し、配慮事項や留意点を挙げるができる
 - ・導入、展開、まとめを一連の流れとして立案できる
5. 手続きと提出物
 - ・期日を確認し、計画的に進められる

履修上の注意

- (1) 教育実習Ⅱを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①実習派遣条件科目の単位を修得していること
 - ②「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の授業に原則全出席していること
 - ③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
 - ④「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の到達目標に達していること
- (2) 教育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

予習・復習

- (1) 予習
 - ①実習先事前訪問にもとづいて、実習園の概要を理解する
 - ②教育実習事前指導を受講し、実習の目標を定める
 - ③実習中は次の日の実習課題を明確にするとともに、教材準備等に努める
- (2) 復習
実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・幼稚園理解・幼児理解）及び実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

使用教科書名

なし

教育実習指導(事前事後)(小学校) ～実り多い実習を実現して今後へ生かす～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年・2年	後期・前期	1	選択	-	必修	-

担当教員
長沼 秀明

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

事前指導においては、各自が、小学校教育の役割と教育実習の意義・目的を理解し、実習への心構えを整えられるように指導する。

事後指導においては、実習で学んだことを整理するとともに、今後の実践的指導力を培うために自らの課題を明確にできるよう指導する。

授業計画

第1回	【事前指導】ガイダンス、小学校における教育実習の意義・目的、教育実習の概要
第2回	教育実習上の諸注意 オリエンテーションへの参加 心構え
第3回	児童と学校生活 (1) 学校の現状・諸問題と対応
第4回	児童と学校生活 (2) 児童の諸問題と対応
第5回	教師の服務 (1) 学校目標、学年・学級の指導目標、校務分掌、教育環境、学期・月・週・日程および教師の仕事の流れ、カリキュラムと時間割
第6回	教師の服務 (2) 教科指導とその他の指導、学級運営、地域・保護者との連携・対応
第7回	指導の実際 (1) 実習生としての児童への接し方、言葉遣い・態度
第8回	指導の実際 (2) 場面指導の具体例
第9回	指導の実際 (3) 学習指導の実践事例—授業設計と教材研究—
第10回	指導の実際 (4) 学習指導の実践事例—授業設計と指導案の書き方—
第11回	指導の実際 (5) 学習指導の実践事例—授業実践—
第12回	指導の実際 (6) 学習指導の実践事例—授業評価—
第13回	教育実習参加についてのまとめ—教師としての抱負をもつ—、実習日誌の書き方
第14回	【事後指導】(1) 実習の報告・反省
第15回	(2) 実習のまとめ、各自の今後の課題
※1年間にわたる科目のため、実際には 20 回程度の授業回数となる予定。	

到達目標

事前指導を通じて、自信を持って教育実習へ臨むことができるよう十分な力を身につけること。また、事後指導を通じて、実習で学んだ成果を今後の教育実践に役立てられるよう万全の準備をすることができるようになること。

履修上の注意

- ・事前指導は、欠席が2割を超えた場合、実習を実施できない。
- ・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。

予習・復習

- ・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
- ・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

評価方法

授業の成果(模擬授業を含む) 100%

使用教科書名

- ・教科書名：『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館
- ・出版年：平成30年
- ・教科書名：『小学校教育実習ガイド(第2版)』
- ・著者名：石橋裕子・梅澤実・林幸範編著
- ・出版社名：萌文書林
- ・出版年：2019年

教育実習 I (小学校) ～より良い教師になるということ～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
1年	-	2	選択		必修		こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

- ・小学校における教科、特別の教科「道徳」、および特別活動について、その指導法を観察し、大学での講義と関連付けて理解を深める。
- ・児童について、各学年の相違を知・徳・体それぞれの発達面を勘案して学ぶ。
- ・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における教師の任務や役割等について理解を深める。

授業計画

第1回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第2回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第3回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介
第4回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第5回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第6回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第7回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第8回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第9回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第10回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第11回	クラス活動への参加。教科等指導。
第12回	クラス活動への参加。教科等指導。
第13回	クラス活動への参加。教科等指導。
第14回	クラス活動への参加。教科等指導。
第15回	教育実習反省会。教育実習Ⅱへの課題と準備の確認。

到達目標

教科、特別の教科「道徳」、特別活動について、実際にどういった授業がなされているか理解し、自ら授業案を作成できるような課題を持つ。
教師の任務役割について理解し、自らが教育を行うことについて明確化する。

履修上の注意

実習は全出席するものであり、遅刻、早退は許されない。
また、社会通念から逸脱した行為があれば、実習の中止となる。

予習・復習

- ・予習：授業等の準備
- ・復習：実習日誌の作成

使用教科書名

石橋裕子・梅澤実・林幸範編著『小学校教育実習ガイド(第2版)』(事前指導で使用)
学習指導要領解説など大学で使用したもの及び実習先で指定のもの
教育実習日誌(小学校)

教育実習Ⅱ(小学校)

～より良い教師になるということ～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
2年	-	2	選択	-	必修	-	こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

- ・小学校における教科指導や特別活動等を観察し、多様な指導内容や方法について理解する。
- ・児童の身体的・知的・社会的発達の特徴を知り、学校での生活のリズムを捉える。
- ・授業設計や指導案作成、授業実践等を実施することにより、児童の発達に合わせた指導内容や指導法を学ぶ。
- ・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における教師の任務や役割等について理解を深める。

授業計画

第1回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第2回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第3回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介。
第4回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習
第5回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習
第6回	クラス活動への参加。他のクラスの観察
第7回	クラス活動への参加。他のクラスの観察
第8回	クラス活動への参加。他のクラスの観察
第9回	クラス活動への参加。教科等指導
第10回	クラス活動への参加。教科等指導
第11回	クラス活動への参加。教科等指導
第12回	クラス活動への参加。研究授業。
第13回	クラス活動への参加。教科等指導
第14回	クラス活動への参加。お別れ会など
第15回	教育実習反省会。教師になるということについて再認識。

到達目標

教科教育、道徳教育、特別活動、総合的学習の時間、外国語の活動を通じて、小学校教育が道関連させて計画が立てられているか理解する。

実際に、学習指導案の作成ができるようになり、クラス運営ができるようになる。

履修上の注意

実習は全出席するものであり、遅刻、早退は許されない。

また、社会通念から逸脱した行為があれば、実習の中止となる。

予習・復習

- ・予習：授業等の準備
- ・復習：実習日誌の作成

使用教科書名

石橋裕子・梅澤実・林幸範編著『小学校教育実習ガイド(第2版)』(事前指導で使用)

学習指導要領解説など大学で使用したもの及び実習先で指定のもの

教育実習日誌(小学校)

保育実習指導Ⅲ・Ⅳ(事前事後) ～有意義な実習を行うために～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	-	-	必修

担当教員
井上・佐藤・宮澤・ 岩崎・小林

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅲ(保育所)・Ⅳ(施設)の意義、目的、方法などを学ぶとともに、保育実習Ⅰ(保育所)・Ⅱ(施設)において明確になった課題について、さらに学びを深められるよう実習事前指導を行う。また、子どもや利用者、保育士の役割と職務内容について理解を深め、保育士としての専門性や実践的知識を高めるため、責任実習の実施に向けた指導を行う。

事後指導では、実習先の講評や実習日誌、自己評価、実習反省会等を通して、実習のまとめと振り返りを行い、保育士としての新たな目標、自己の課題が明確になるよう指導する。

授業計画

	保育実習Ⅲ(保育所)	保育実習Ⅳ(施設)
	【事前指導】	
第1回	実習事前事後指導の流れについて	実習事前事後指導の流れについて
第2回	保育実習Ⅲ(保育所)の目的と意義	保育実習Ⅳ(施設)の目的と意義
第3回	実習先事前訪問について	実習先事前訪問について
第4回	課題を明確にして保育実習に取り組むために	課題を明確にして保育実習に取り組むために
第5回	実習日誌とその活用(1)	実習日誌とその活用(1)
第6回	実習日誌とその活用(2)	実習日誌とその活用(2)
第7回	指導案の作成(1)	施設の役割と現状
第8回	指導案の作成(2)	実習課題と実習日誌の書き方(1)
第9回	模擬保育(1)	実習課題と実習日誌の書き方(2)
第10回	模擬保育(2)	指導案の作成
第11回	模擬保育(3)	模擬保育
第12回	実習における諸注意と事前の自己チェック	実習における諸注意と事前の自己チェック
	【事後指導】	
第13回	実習の総括と自己評価① レポート作成	実習の総括と自己評価① レポート作成
第14回	実習の総括と自己評価② グループワーク	実習の総括と自己評価② グループワーク
第15回	実習の総括と自己評価③ 全体報告	実習の総括と自己評価③ 全体報告

到達目標

- ・園や施設の方針を理解したうえで、保育者の関わりを基に適切に行動できるようになり実習に臨む。
- ・生活・遊びを促すための教材研究や援助の仕方を理解して実習に臨む。
- ・記録のとり方・記入の仕方を理解して実習に臨む。
- ・指導案を書く意味を理解し、指導案を保育実習につなげることができる。
- ・期日を守り提出物や実習の手続きを計画的に進められる。
- ・保育実習Ⅲ・Ⅳを振り返り、今後の課題を明確にできる。

履修上の注意

- ・事前指導は、欠席が2割を超えた場合、実習を実施できない。
- ・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。

予習・復習

- (1) 予習
 - ① 次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
 - ② 実習先事前訪問にもとづき、自己の課題を明確にして実習に臨む。
- (2) 復習
 - ① 課題を完成させ、期日内に提出できるように計画的に準備を進める。
 - ② 実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

使用教科書名

厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館) 最新版/Ⅲ:小櫃智子他編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』、Ⅳ:守巧他著『施設実習パーフェクトガイド』(わかば社)

保育実習Ⅲ(保育所)

～保育所理解および保育理解を深める～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
2年		2	選択	-	-	選択必修	こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅰ(保育所)の学びを踏まえ、子どもとのかかわりを深めながら観察し、保育理念や保育課程を把握し、保育士の職務をより深く理解できるように指導する。また、修得した全教科の知識と技能を基礎として、総合的に実践する応用力を身に付けられるように指導する

授業計画

- (1) 実習期間と実習時間
2022年8月・9月の間の2週間、90時間の実習を行う(実習園によって日程が異なります)。
- (2) 実習内容
実習園の指導のもと参加実習、指導実習(部分実習および責任実習)を行い、省察する。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
 - ・園や施設の方針を理解したうえで、適切に行動できる
 - ・目標を明確にし、向上心をもって実践的な学びを積み上げることができる
2. 知識および技能
 - ・保育内容にふさわしい教材準備や環境構成ができる
 - ・生活・遊びを促すための援助ができる
3. 実習日誌
 - ・乳幼児とのかかわりから保育士の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる
 - ・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。
 - ・子どもの姿を場面で捉え、そこから「乳幼児理解」につなげていくことができる。
4. 指導案
 - ・指導案を書く意味が分かり、指導案を保育実践につなげることができる
 - ・全日実習指導案の作成から実践につなげる
5. 手続きと提出物
 - ・期日を守り、計画的に進められる

履修上の注意

- (1) 保育実習Ⅲを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①実習派遣条件科目の単位を修得していること
 - ②「保育実習指導(事前事後)Ⅲ」の授業に原則全出席していること
 - ③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
 - ④保育実習指導Ⅲ(事前事後)の到達目標に達していること
- (2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

予習・復習

- (1) 予習
 - ① 実習先事前訪問にもとづき、保育園の概要理解に努める
 - ② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する
 - ③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める
- (2) 復習 実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

評価方法

実習園による評価(実習態度、保育所理解、幼児理解等)および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

使用教科書名

なし

保育実習Ⅳ(施設)

～児童福祉施設への理解を深め、実践力を高める～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
2年	-	2	選択	-	-	選択必修	こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅱ(施設)の学びをふまえ、児童福祉施設(保育所を除く)、その他社会福祉施設における実践を通して、施設における子ども・利用者の生活を理解するとともに、保育士として必要な支援技術の向上を目指し指導する。

授業計画

- (1) 実習期間実習時間
2022年8月・9月の間の2週間、90時間の実習を行う(実習施設により異なります)。
- (2) 実習内容
観察・参加実習を中心とするが、施設の指導をもとに部分実習も行う。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
 - ・施設の方針を理解したうえで、保育者と子ども・利用者とのかかわり方を学び、適切に行動できる
 - ・保育者として学んだことを主体的に果たすことができる
2. 知識および技能
 - ・信頼関係を築くための技能を身につける
 - ・施設の役割と社会的な位置づけを知る
 - ・施設の現状(生活、職員の役割)を理解する
3. 実習日誌
 - ・子どもや利用者とのかかわりから保育者の意図を感じ取り、「学び」や「気づき」を書くことができる
 - ・「個」と「集団」の姿を記録できる
 - ・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。
4. 指導案
 - ・指導案を書く意味が分かり、指導案を実践につなげることができる
5. 手続きと提出物
 - ・期日を守り、計画的に進められる

履修上の注意

- (1) 保育実習Ⅳを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①実習派遣条件科目の単位を修得していること
 - ②「保育実習指導(事前事後)Ⅳ」の授業に原則全出席していること
 - ③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
 - ④保育実習指導Ⅳ(事前事後)の到達目標に達していること
 - (2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
- 保育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

予習・復習

- (1) 予習
 - ① 実習先事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める
 - ② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する
 - ③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める
- (2) 復習 実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

評価方法

施設による評価(実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等)および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

使用教科書名

なし

保育・教職実践演習(幼・小) ～これまでの学びをふりかえる～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	必修

担当教員
細淵・大橋・野口・長沼・ 関根・佐々木・岩崎・小林

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

入学から2年前期までに学んできた教員および保育士になるために必要な知識・技能について習得できているかを整理し、学びの確認を行う。資格取得関連項目について、何をどう学んだか履修評価表(かわたんシート)を通じて確認し、小学校教育、幼稚園教育、保育所および福祉施設それぞれについて、分野ごとに子ども理解、学級経営、内容の指導法に関するグループディスカッションなどを行っていく。

また、外部講師の講義を通して、広い視野に立って教育・福祉について指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	全体講義①外部講師の講義(先輩から学ぶ保育・教育の現場)
第3回	全体講義②外部講師の講義(幼稚園で働くということ)
第4回	全体講義③外部講師の講義(保育所で働くということ)
第5回	全体講義④外部講師の講義(小学校で働くということ)
第6回	全体講義⑤外部講師の講義(児童福祉で働くということ)
第7回	全体講義⑥ふりかえり
第8回	クラス別演習①
第9回	クラス別演習②
第10回	クラス別演習③
第11回	クラス別演習④
第12回	クラス別演習⑤
第13回	クラス別演習⑥
第14回	全体報告会
第15回	まとめ

到達目標

これまで大学で学んできた講義内容、実習での活動について、履修評価表(かわたんシート)を通して全体の関係性を理解する。また、自己の学修と他者の学修を、グループディスカッションを通して比較し、教育・福祉の多様性を理解する。

履修上の注意

原則として、すべての回の出席を求める。やむを得ない欠席については、届け出ること。後半は50名程度のクラスを編成し、クラス別の授業を行う。履修クラスはガイダンスで提示する。

予習・復習

- ・予習：日頃から、図書館に赴くなどして、教育・保育・福祉に関する書物に目を通しておく。
- ・復習：講義や授業で学んだことをノートにまとめておき、随時確認する。

評価方法

期末のレポート 70%	授業内レポート 20%	受講態度 10%
-------------	-------------	----------

使用教科書名

教科書は使用しない。